

早期心理運動療法の適応に関する警告サイン

RPO 心理運動療法士ワーキンググループによる作成

Fanny Cassol, Corinne Gayet, Rozenn Gernigon, Annabelle Miermon, Nathalie Noack, Fabienne Solles Vidou



はじめに

当ネットワークにおける脆弱な子どもたちのフォローアップは、長年にわたり、リハビリテーション士、心理士、医師といった現場の専門家たちに支えられてきました。

各ワーキンググループは、脆弱な子どもたちのフォローアップとケアに関する専門家の研修を推進するため、日々の活動において私たちを支援しています。

この小冊子は、当ネットワークの心理運動療法士グループによる取り組みの成果です。本冊子は、TND（神経発達障害）のリスクが高い、あるいは症状が見られる子どもたちに対して、早期支援が必要な状況を特定できるよう、医師の日常診療を支援することを目的としています。

早期支援は、脳の発達の大部分が経験に依存しており、適したサポートによって発達経路を改善できるというエビデンスに基づいています（脳の可塑性／臨界期）。

これには、予防的・教育対応入および治療的介入が含まれます：

早期教育対応は、保護者に子どもの発達段階やその発達を促す方法を理解してもらうこと、親子のアタッチメントを育むこと、そして保護者が抱えるストレス（新生児集中治療、早産、赤ちゃんの生活への適応困難などからくる PTSD を含む）を認識し、理解することを目的としています。

早期対応は、発達支援（神経運動理学療法、心理運動療法、言語聴覚療法、心理的フォローアップ、作業療法、視能訓練等）を行うことを目的としています。

これにより、認知、運動（粗大運動・微細運動、協調性）、コミュニケーション、情緒・社会性、適応性など、発達のさまざまな領域に効果が期待できます。

早期対応は、親子の関係を改善し、家族が子どものニーズに合わせて行動を調整できるよう支援し、親のストレスを軽減する点でもその有効性が実証されています。

私たちは、脆弱な立場にある子どもたちのケアの過程を改善し、子どもたちとその家族の生活の質を高めるために、日々支援と献身的な取り組みを続けてくださっているすべての専門家ワーキンググループの皆様へ、心より感謝申し上げます。

とりわけ、心理運動療法士によるワーキンググループの皆様には、明確かつ的確で、大変参考になるご尽力に対し、心より感謝申し上げます。

ハリマ・アバカリム・ナイメ医師

小児科医、RPO 医療コーディネーター

ジャン＝クロード・セメ博士

小児科医、RPO 名誉会長

心理運動療法の適応に関する警告サイン

本ツールは、RPO（地域児童精神科ネットワーク）の担当医師を対象としています。これにより、子どもの発達過程に悪影響を及ぼす可能性のある行動的・臨床的兆候を早期に特定することが可能です。この点において、本ツールは HAS（フランス医療評価機構）の推奨事項（TND 2020 年 2 月）に沿ったものです。

一部の臨床的兆候は、将来的に病理的な影響を及ぼさない単なる個体差による精神運動発達上の差異であったり、刺激の少ない心理社会的環境によって助長されたりする場合がありますが（HAS 2020）、一方で TND の警告サインである可能性もあります。

生後早期からの心理運動療法の方針を定めるため、これらの警告サインは「横断的サイン」と「年齢に関連するサイン」に分類されます。

主要な適応症は太字で記載されています。

どの年齢であっても能力の低下や向上が見られない場合は、注意すべきサインです。

こうしたサインの中には、子どもやその保護者のニーズに応じて、多職種による連携したケアが必要となるものもあります。

心理運動療法士によるケアは、乳児とその家族を中心に据えます。

以下の点において子どもを支えます：

- 感覚、動き、感情の体験
- 感覚の統合と調節
- 知覚の統合
- 探索行動や運動機能の組織化
- 他者や環境との関係や相互作用

また、親と赤ちゃんの相互調整を支援し、子育てをサポートします。

あらゆる年齢層に適用される - 横断的な警告サイン

ストレスと自己調節
ストレスのサイン • 驚く、泣く、刺激に対する特異な反応（不安、引きこもり閉じている、無反応）、 • 自律神経症状（顔色の変化、斑状の発赤、消化器系の兆候、過度の唾液分泌など） • 睡眠・覚醒リズムの乱れ • 消極的・抵抗的な態度、特定の姿勢に対する不安、特定の身体部位に近づかれたり動かされたりした際の不安の表れ 鎮静の困難（生後直後から）および自己調節機能の欠如（生後３ヶ月以降） • 刺激に対する過敏反応 • 「過度に警戒している」赤ちゃん、「緊張した」発声、身体の緊張／筋緊張の急激な低下 • 苛立ち、不寛容、イライラ • 視覚への固執および自己刺激行動（口、耳、衣服など） • 刺激に対する反応の遅れ、反応の欠如
運動機能
身体統合 • 特定の身体部位への関与や探索の欠如：使わない、無視、動作を省く • 動作や歩きははじめにおける姿勢の非対称性、上半身と下半身の不均衡 運動のレベル • 過活動状態：焦り、休止の欠如、動作の不連続性、落ち着きのなさ • 活動不足：反応の鈍さ、可動性の低下、動作の遅さ 動作の質 • 自発的なレパートリーが乏しく、多様性や複雑さに欠ける • 流暢さや滑らかさの欠如 • 無理をしている印象 運動機能および筋緊張の調整 • 自分のやりたいことがうまくできないように見える • 目的や目標の欠如 • まとまりの欠如 • 動作の混乱 • 刺激や感情が生じた際の緊張の調節・調整が困難、過度に伸びをする • 呼吸の過度の力みと停止

欲求 - 関与 - 探索

- 探索行動に変化が少なく、反復的で、休憩がなく、促されても変化しない
- 表現力が乏しい（表情、身振り、声など）
- 赤ちゃんが関与するまでに時間がかかり、落ち着きすぎ、反応が乏しく、知覚の反応が遅い
- 新しいものへの関心が乏しく、好奇心が欠如している

身体的なやり取り・相互作用・調整

- 赤ちゃんが交流をほとんど、あるいは全く始めようとせず、模倣も見られず、存在を忘れられがち
- 交流に断続性が見られ、対人関係からの引きこもりが疑われる
- 身体的接触を嫌がり、親に触れようとする自発的な行動が少ない
- 声の練習や多様な音声表現がほとんどない、あるいは全くない
- 赤ちゃんとの関わり方や、赤ちゃんを落ち着かせることについて、保護者から懸念が報告されている
- 抱っこへの適応不足、身体的な相互作用の欠如 — 緊張・感情の対話
- 親から与えられる刺激の調整不足、刺激の貧弱さ、「不器用さ」、パフォーマンスの追求といった印象など
- 赤ちゃんと保護者のリズムのズレ、呼吸が合うことがない

一般的な臨床所見

- 身体的なコミュニケーションのサインや、周囲でのやり取り、出来事を十分に理解できていない
- 身体言語が不明瞭、あるいは誤解されやすい（視線を固定したりそらしたりする、身振り手振りが乏しい、表情の変化が少ない、他者との距離感や姿勢が独特である）
- 行動や探索行動に奇妙な点が見られる
- 物への探求や触ろうとすることを避け、あるいは手や指の動きが不器用である
- 全般的な不器用さが認められ、空間内で自分の体や特定の部位をうまくコントロールできていない
- 状況の変化や広い空間、場所から場所への移動時、あるいは待っているときに、混乱しているように見える（行動、運動能力、態度、コミュニケーションなど...）
- 安心感があり刺激的な環境にあるにもかかわらず、精神運動発達達の進行が遅く、あるいは困難を伴うように見える

発達段階ごとの注意すべき兆候の年齢別警告サイン

太字は主要な警告サイン

生後 1 ヶ月	
●視線を固定しない、追わない、または長時間のアイコンタクトがない（視線の追跡やコンタクト） ●コミュニケーションへの意欲が見られず、近づいても反応しない ●声をかけても大人の方を向かない ●発声が見られない ●自己調節のための吸啜がない ●抱っこ中に相手の体に向かって体を寄せる動きが見られない ●保護者が抱っこする際に困難を訴える（筋肉の弛緩不足または筋緊張の低下） ●なだめるのが難しく、抱っこしても声をかけても落ち着かない ●環境の変化（音、声、動き、光など）に対する反応が見られない ●自己接触の動きが見られない ●赤ちゃんに安心感を与えるルーティンの確立が困難 ●重力や触覚に対する自発的な動きが見られない ●体の特定の部分に触れると特有の姿勢をとる（新生児期の記憶） ●四肢の動きが少ない ●筋緊張亢進を伴わない伸展姿勢 ●筋緊張亢進または筋緊張低下（情緒面との関連）	
生後 3 ヶ月	
同様の徴候に加え ●授乳中の視覚的相互作用が見られない ●近くで興味を引く音がしても、吸うのを止めない ●自ら交流を始めようとしなかったり、あるいはそれを維持できなかったりする ●模倣も、笑顔での反応もない ●赤ちゃんの泣き声が少なく、表情の変化も乏しい ●自分の手を視界に入れない、手を見ない、両手を合わせようとしない ●物に興味を示さない ●物をしっかりと握ることができない ●頭を支えられない ●コミュニケーションの場面で、赤ちゃんの筋緊張に変化が見られない ●抱っこされている際、赤ちゃんは姿勢を調整せず、次の動きを予測しようとしめない ●体幹の軸を中心に体をまとめることができない ●自発的な運動のバリエーションが少ない ●検査中の姿勢の安定性の喪失	●身体の一部（半身、足、四肢など）の機能低下／可動域の狭小化 ●うつ伏せの姿勢で前腕に体重を預けない

生後 6 ヶ月

上記の兆候に加え、以下の点が見られる

- はっきりと抗議せず、喜びや不快感を表さず、笑わない
- 表情、身振り、声の出し方に表現力がない
- **名前を呼ばれても反応しない、周囲の物音にも反応しない**
- 相手や社会的状況によって違いを見せない
- 抱き上げてもらおうと腕を伸ばさない
- 自分のマットの上で、少しの間（約 10 分）一人で遊べない
- **自発的に、人との関わりから周囲の環境（物、人、場所）の探索へと移行しない**
- 提示された複数の物の中から一つを選ぼうとしない
- **両手を使った物の操作に正確さが欠けており、物を片方からもう片方へと移動させることができない**
- 特定の効果をもたらす動作を再現しようとししない
- 物を探そうとしない
- 他人の顔を触ろうとはしない
- 物体や周囲の環境の詳細（例：ラベル、衣服の糸、イヤリングなど）を詳しく調べようとししない
- 物の大きさに合わせて持ち方を変えない（両手または片手で持つ）
- **常に同じ方法で物を取り扱う**
- 物を口に運ばない
- 手に持っているもの以外の物には関心を示さない
- さまざまな姿勢で物を取り扱わない
- 特定の手を優先して使う（例：物をつかむ際、その物に最も近い手を使わない）
- 少し離れた場所にある物を取り出したり、他の人と遊んだりする際、動きの工夫をしようとししない
- **ごく狭い範囲にとどまり、位置を変えようとはしない**
- **自分の視界内に足を入れようとせず、体を丸めようとししない**
- **両手で体を支えない**
- **「塊」のように動く（四肢が独立して動くことがない）**

生後 9 ヶ月

上記の兆候に加え、以下の点も確認される

- 状況に応じた明確かつ多様な方法で注意を引くことができない
- 足を口まで持っていくことができない
- 静かすぎる、声の出し方に変化がない
- 模倣が見られない
- 指さされたものを見ようとしない
- 周囲の環境を探索することと保護者との関わりを交互に行うことができない
- （隠された）対象の恒常性が認められない
- 多様な方法や複数の感覚を用いて物を探索しない
- 機能的な遊び（遠ざける、空にする、中に入れる、2つの物を叩くなど）を試さない
- 自分の後ろで何が起きているかに注意を払っていない
- 親指と人差し指でつまむ動作、指を広げる動作、手首を回す動作が見られない
- 両手の協調動作（両手協調）が見られない
- 意図的に物を手放さない
- 行動や移動を行うための意図を維持できない
- 座った姿勢を保てない
- 周囲の物や人、あるいは自身の快適さに応じて姿勢を調整できない
- 自ら移動しようとしめない
- 寝返りができない

12 ヶ月

上記の兆候に加え、以下の兆候が見られる

- コミュニケーションをとるために、体の位置や向き、距離を調整しない
 - 物をやり取りする遊びに積極的に参加しない
 - 自立への欲求（自分でやりたい、同じことをしたい、自分で選びたいなど）が見られない
 - 拒否の意思を示さない（首を横に振る、手で押しのけるなど）
 - 自分の行動が他者に与える影響を試そうとしない
 - 物を体に抱きしめて所有しようとする行動が見られない
 - 模倣による象徴的なジェスチャーが見られない（さようなら、よくできたね...など）
 - 他者の視線の方向を理解していない、あるいは自身の視線の方向で意思表示をしていない
 - 指示的な指差しが見られない
 - 「空にする／満たす」遊びや、入れ子遊び（例：入れ子箱）が見られない
 - 新しい物の細部への関心が見られない
 - 能動的な試行が見られない（例：異なる物体に対して同じ動作を繰り返す、奥行きや距離の試行）
 - 因果関係の遊びもない
 - 物をつかんだり操作したりする際の姿勢の調整ができない（方向を定めたり、体を持ち上げたり、立ち上がったことなど）
- 片手・両手での把持において、対象物の特性に応じた把持方法の調整が見られない
 - 非定型の移動様式（例：お尻で前進する、身体の統合における非対称性・不均衡など...）
 - 姿勢や移動方法の多様性の欠如

18 ヶ月

上記の兆候に加え

- 相手の意図を理解できない
- **一人で遊ぶことが全くない、あるいは同じ遊びを繰り返す**
- 物を組み合わせようとはしない（蓋を閉めたり、積み重ねたり、並べたり…）
- 前宣言的な指差しが見られない
- **活動を頻繁に中断したり、活動に対する粘り強さが欠けている**
- **助けを求めるための方法を見つけられない**
- 日常生活の習慣が身についていない
- **物を道具として使わない**（食事用のカトラリー、木琴を叩くための棒、別の物を使って目的の物に手を伸ばすなど）
- 体の後ろを使って物を隠そうとしない
- **手作業に積極的に取り組まない、あるいは避ける**
- **両手の協調動作が見られない**（片手が動作し、もう片方が支える）
- ある動作がうまくいかない場合、動作のレパートリーを変えない
- 着替えや日常の身だしなみには参加しない
- 鏡に映った自分の体を見すぎず、身近な人の体と自分の体をあまり比較しないようにしよう
- **動きの中で刺激（加速、方向転換など）を求めない**
- **移動時や障害物を乗り越える・くぐる・迂回する際に、過度に慎重になったり、回避したりする**
- **自発的に歩こうとしない**（恐怖心や歩行能力の未習得による）
- 物を持ちながら移動する際、バランスを崩したり、姿勢を調整できなかったりする
- **登ろうとしたり、高低差を体験しようとしたりしない**
- **登ったり座ったりする動作や、複合的な動作を計画的に行えない**
- 後ろ向きに歩かない
- 目的を持って2つの動作を協調させることができない（歩きながら物を運ぶ、後退しながらバランスを保つなど）

24 ヶ月

同じ兆候に加え、以下の行動が見られる

- ある活動を中断して、再び再開することができない
- **行動が非常に断続的である**
- 離れた場所にいる相手とコミュニケーションをとることができない
- **ごっこ遊び（架空の遊び）をしない**
- **場所と人、あるいは出来事との関連付けができない**
- 日常的な物の開閉方法を習得していない
- **組み立てたものを安定させられない、あるいは組み立て方（積み重ね、配置、並べ方）が分からない**
- **単純なはめ込み（円形、正方形、三角形）ができない**
- **一人で服を着ようとはしない**
- **周囲の環境（傾斜、地質、高さ）に合わせて、体の向きや移動方法、進路を調整しようとし**
- 協調性があり、滑らかな走り方をしない
- 周囲の空間を考慮しつつ、移動と特定の動作を組み合わせることができない